

社会活動のご紹介

■ 喜びの高揚

1. 自転車の楽しさを広げる
2. 釣りの楽しさを広げる

■ 利用環境の整備・保全

1. 社内での取組み
2. 社外での取組み

■ 信頼の構築



1. 自転車の楽しさを広げる活動

自転車レース・イベントの開催

シマノでは、サイクルスポーツを楽しむイベントを開催しています。
なかでも、「シマノ鈴鹿ロードレース」は1984年より開催されており、
2006年で第23回目の開催となります。

「シマノ鈴鹿ロードレース」は、
誰もが参加できる「日本最大級のサイクリストの祭典」で、
昨年は1万人以上が参加。F1マシンが疾走するあの鈴鹿サーキットのコースを
思う存分、楽しんでいただけます。

これまでに延べ17万3千人の方々に参加していただき、
過去にはツール・ド・フランス前人未踏の7連覇を達成した
ランス・アームストロング選手やF1ドライバーの佐藤琢磨選手など
多くの著名人にも参加していただきました。

夏休み最後の週末に開催される「シマノ鈴鹿ロードレース」では、
エントリーレベルからエキスパートまで、
すべてのサイクリストが楽しめる様々な種目が用意されています。
シマノでは、「シマノ鈴鹿ロードレース」のほか、「シマノもてぎロードレース」、
「シマノ・バイカーズ・フェスティバル」などの自転車イベントを開催し、
より多くの方々へサイクルスポーツに接する機会を提供しています。



シマノ鈴鹿ロードレース



2006年度 シマノ自転車イベント開催の予定

「第8回 シマノもてぎロードレース」

開催日:4月9日(日)

開催場所:ツインリンクもてぎ(栃木県宇都宮市茂木町)

「第16回 シマノ・バイカーズ・フェスティバル」

開催日:7月22日(土)~23日(日)

開催場所:富士見パノラマリゾート(長野県富士見町)

「第23回 シマノ鈴鹿ロードレース」

開催日:8月26日(土)~27日(日)

開催場所:鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)



シマノ・バイカーズ・フェスティバル

自転車レースへの支援

シマノでは自転車レースの本場ヨーロッパをはじめとする国際的な競技団体やチームの支援を続けています。

また国内外で開催される国際レースを含むさまざまなレースのテクニカルサポートや競技役員の派遣なども行ない、その数は日本国内開催分だけで年間60レース以上になります。



シマノレーシングの活動

世界のトップレースをめざす「シマノレーシングチーム」

自社でも1973年以来レーシングチームを擁し、これまでに7大会連続・11人のオリンピック選手を輩出しています。シマノレーシングチームは「海外のトップレースへの参加可能性を持つ日本初のチーム」として2005年よりオランダと日本に活動拠点を置き、UCI(国際自転車競技連合)公認のコンチネンタルプロチームとしてレース活動を行なってきました。2006年は「SKIL-SHIMANOスキル・シマノ」としてレース活動を行なっています。

4月に開催される「パリ・ルーベ」(フランス:4月9日開催)や「アムステル・ゴールド・レース」(オランダ:4月16日開催)といったプロツアー・カテゴリーのレースにも出場予定です。

日本人選手にとっては世界のメジャーレースを走れるチャンスが大きく広がり、またそれにより日本人選手が世界の檯舞台で活躍する日も夢ではなくなります。



シマノレーシングチーム

サイクルアカデミーの開催

2005年より「シマノレーシング・サイクルアカデミー」を開催しています。シマノレーシングチームの選手たちが講師となって、ベダリングやライディングフォームをマン・ツー・マンでチェック。ストレッチやダイエット、レース戦略についての講義を行なっています。サイクルスポーツの底辺拡大、レベルアップをめざすと同時に、多くの方々にサイクルスポーツの本当の楽しさを知っていただきたいとの思いから、今後もこのような活動を続けていきます。

2006年からはジュニア向けの「シマノジュニア・アカデミー」も開催。その活動をさらに拡げていきます。



シマノサイクルアカデミー

ツアー・オブ・ジャパンへの協賛

「ツアー・オブ・ジャパン(TOJ)」は、1982年より1995年まで開催された「国際サイクルロードレース」を継承するもので、1996年にUCI(国際自転車競技連合)公認のステージレースとなったことを契機に現在の名称に変更され、日本をはじめアジア地域でも確固たる地位を築いています。「ツアー・オブ・ジャパン」は、大阪ステージを皮切りに展開されるステージレースで、2005年5月15日～22日に開催された「第9回 ツアー・オブ・ジャパン」は、大阪・奈良・南信州・富士山・伊豆・東京の6ステージで行なわれました。大阪ステージは、例年、シマノのお膝元である堺市で行なわれます。一般公道を封鎖し、泉北ニュータウンという大きな住宅地の周りを周回する大阪ステージは、華やかなサイクルスポーツが多く的一般市民の目に触れる貴重なイベントでもあり、「第9回 ツアー・オブ・ジャパン」の観客数は13万人(TOJ広報ニュース)でした。シマノでは、この「ツアー・オブ・ジャパン」に協賛するとともに、大阪ステージでは、社員約140人が審判員や自主警備員として沿道に立ち、レース開催に協力しています。

世界のレース文化への支援

シマノは1999年よりUCI(国際自転車競技連合)のメインスポンサーの1社として、自転車競技やサイクルスポーツの振興に協賛しております。UCI認定のロード・トラック・MTB・シクロクロスなどの自転車競技の世界選手権やオリンピック大会における自転車競技において、公式サプライヤーとして、ニュートラル・テクニカル・サポートを提供しています。シマノでは、UCIへの協賛・協力を通じて、多くの方にサイクルスポーツの楽しさを知っていただき、サイクルスポーツの振興に寄与してまいります。



昨年開催された
「第9回 ツアー・オブ・ジャパン」全6ステージ
1st stage 大阪 [5.15/140.80km]
2nd stage 奈良 [5.16/146.20km]
3rd stage 南信州 [5.18/155.30km]
4th stage 富士山 [5.20/11.40km/TT]
5th stage 伊豆 [5.21/130.35km]
6th stage 東京 [5.22/138.50km]



2. 釣りの楽しさを広げる活動

シマノ・ジャパンカップの開催

毎年、日本全国でさまざまな釣種の競技会を開催しています。
なかでも「シマノ・ジャパンカップ」は1984年にへら釣り選手権からスタート。
現在では、釣種も「へら」、「鮎」、「磯」、「投げ釣り」の4釣種となりました。
それぞれの釣種において、全国各ブロックによる地区予選を行ない、地区予選を勝ち抜いた成績上位者により、全国大会を開催。チャンピオンを決定します。
2005年11月12日～13日にかけては、
「第21回シマノ・ジャパンカップ磯釣り選手権全国大会」が開催されました。
全国地区大会勝ち抜き者、シード・招待を含む20名の日本人選手と
「シマノ台湾磯カップ」「シマノ韓国磯カップ」からの外国人招待選手3名が
参加し、長崎県下五島でその腕を競いました。
大会終了後は恒例となっている「シマノ・クリーンアッププロジェクト」を開催。
選手、大会役員、スタッフ、報道陣など関係者が全員で大会本部周辺の清掃活動を行ないました。
この他、クロダイ(チヌ)釣りの釣技を競う「RINKAI CUP」や
スポーツキャスティングの技術を競う
「シマノ・ワールド・スポーツ・キャスティング・トーナメント」も開催しており、
ただ魚を釣るだけの釣りからスポーツや競技としての釣りの楽しさを
提供してまいります。



各種実釣会の開催

シマノからの新たな提案による釣りの捉え方、
そこから生まれる新たな釣具を体験・理解していただくために、
各種の実釣会を開催しています。
開催場所や内容はさまざまですが、昨年、千葉県大原港で開催した
「大原船釣り大会」では、当社のパーソナル魚探システム「探見丸」を使った
船釣りを存分に楽しんでいただきました。
「探見丸」をお持ちでない方には貸し出しも実施。
シマノインストラクターによる「探見丸」の使い方のアドバイスも行ない、
親子や夫婦での参加者を含む200名以上の方々々が船釣りを堪能しました。
シマノではこうした実釣会を通じて、
シマノ製品の普及と釣文化の啓発・普及に務めています。



パーソナル魚探システム「探見丸」

フィッシング・カフェ・プロジェクト

新しい釣り文化の創造を目指す「フィッシング・カフェ・プロジェクト」は、「釣り」を文学や美術・芸術、社会、教育、自然、環境などさまざまな文化的・社会的視点から捉え、釣りの新しい魅力や楽しさを伝えたいとの願いから始まった活動です。

内容の多様さとともに、季刊誌、ホームページ、CSTV釣りビジョンでの放映など、情報提供の媒体もバラエティに富んだものとなっています。

季刊「フィッシング・カフェ」が2005年日本産業広告総合展PR誌の部“金賞”を受賞

同展での受賞は創刊以来4度目となります。「釣り好きを夢中にさせる企画と美しいデザイン」そして「自社の商品情報を最小限に抑え、釣り好きが欲しがる情報を巧みに料理して提供し続ける姿勢」が高く評価されました。



釣りロマンを求めて

テレビ東京系列各局で放送の「釣りロマンを求めて」では毎週、国内の身近な釣りから夢のある釣り、

さらには世界の釣場から釣りの楽しみをお届けしています。

同時に、釣りにおけるマナーや釣場で求められるさまざまな配慮を映像に盛り込むことにより、釣文化の普及・啓発を行なっています。

番組の放送はこれまでに869回(2006年2月25日放映時点)を数えます。



1. 社内での取組み

開発・設計部門での取組み

常に時代を切り開く新製品は、お客様に最高の機能を提供するだけでなく、その製品が使われる利用環境への配慮も、同時に合わせ持たねばならないと考えています。

エコビジョン

より快適に自転車を楽しんでいただくために、当社は自転車部品に最先端のエレクトロニクス技術を導入し、全自動式変速システムや全自動式オートライトを製造販売致しております。電子制御により、自転車に乗っている人は、かるやかで心地の良いペダリングを楽しみ、暗くなればセンサーが反応して自動的にライトが点灯する安心・安全を手に入れました。

しかも、これらの電子デバイスに必要な電力は、車輪の軸に内蔵された発電機から供給される、自己完結型で持続可能なシステムになっています。

電池がいらない「エコビジョン」は、自転車部品として高い機能で乗り手を満足させるだけでなく、自転車そのものが本来もっている、人や環境にやさしい乗り物としての存在価値をさらに高めるサポートとなっています。

デジタル・コントロール・ブレーキ

また釣具においても同様に、ルアー・フィッシングに使用するリールにも、お客様が求める究極の機能と利用環境保全の両立を考慮した開発がスタートしております。

軽いルアーでも、糸がもつれず正確に、遠くに飛ばすための電子制御のブレーキシステムを開発いたしました。

釣人は最高のブレーキ機能を手に入れ、更にその制御に必要な電力を、ルアーを投げる時に高速回転する糸巻きから得ることで電池が不要になりました。



製造・配送部門での取組み

シマノでは、製造業として環境関連法規制の遵守はもちろんのこと、さらに厳しい自主管理基準を設けています。
また、製造技術の向上と協力工場様との連携強化により、調達・製造・配送のあらゆる段階で環境負荷の低減に取り組んでおります。

「シマノグリーンプラン」の推進

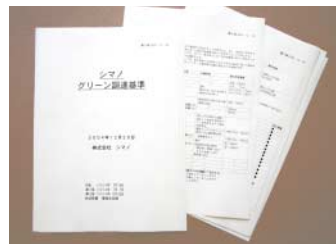
製品に使用される原材料・部品等を調達する際、「シマノグリーン調達基準」を設け、2004年2月16日に初版を発行し協力工場様とともに取組みを開始しました。
これは、地球の環境保全に積極的に取り組む為に環境負荷低減を目的とした調達における基準です。そして、昨年までに各国の環境関連法規制や指令及び「有害物質不使用」を含めた2版、3版を発行しました。
また、2006年はシマノ独自の規制も盛り込んで第4版(名称を改めて「シマノグリーンプラン」)を発行する予定です。

協力工場様との連携

ISO14001をテーマに、「シマノ塾」を協力工場様にも参加いただいています。シマノの環境への取組みにご理解をいただき、連携してより環境にやさしい事業活動に取り組んでまいります。
またISO9001、シックスシグマ、OHSAS18000などの講習を同様に開催し、マネジメントや安全管理などの分野でも、より強い連携を図るべく取組みを行なっています。

ルート管理システムの導入

製造部においては、仕掛品等の各協力工場様への物流を車両を共有して行なっています。例えば、シマノを出た車両が、協力工場のA社様に向かった後、同じく協力工場のB社様に向かいます。
このように数社の協力工場様を1巡した車両は最後にシマノに戻ります。以前はそれに関わる協力工場様の車両が協力工場様とシマノの間を往復していました。
現在、『ルート管理システム』の導入により、クランク・ブレーキ・カセットギア・部門共有の4グループが天然ガス車等を共有し、インターネットから得られるルート情報によりそれぞれの共有車両の現在位置・到着予定時間・進捗状況・積載率等が一目で確認できます。
この『ルート管理システム』の活用により物流を効率化し、環境にやさしい物流の推進に取り組んでいます。



ECO対象車への転換・導入促進

天然ガス車、ハイブリッド車の導入を推進しています。

当社の物流を担う(株)サンボウ様においては、現在32台のトラックを保有していますが、そのうち5台が天然ガス車。

今後、年に1台ずつ天然ガス車などのECO対象車に転換を計っていきます。

また、当社社用車にもハイブリッド車を導入しており、これも今後転換を進めていく予定です。



環境負荷の低減

当社のコア技術である冷間鍛造技術を通して製造される冷間鍛造品は、高い精度が要求される自動車の部品にも使用されております。

冷間鍛造は常温の下、大型のプレス機械で金属を変形加工する技術です。

冷間鍛造で使用する金型の設計を工夫することで金型の寿命をさらに

伸ばしたり、精度の高い冷間鍛造工程の確立することにより、

次の切削工程における作業内容を少なくしたり、あるいは不要にすることが可能に

なります。これによりコストダウンと環境負荷低減を同時に達成しております。

また、当社では、顧客満足の向上と製品の品質向上を目的に6シグマを1999年から導入いたしました。

6シグマという統計的手法の導入により、バラツキをなくし、継続的かつ効率的に無駄のない生産活動に努めております。



有害物質の使用制限、排出抑制

EUで出された「RoHS指令(特定物質使用禁止指令)」

「WEEE(廃電気電子機器指令)」の国際基準に関して、

EUでの対策が完了しています。また自社独自の「禁止物質」も設定し、

「シマノ グリーン プラン」として協力会社様を含め、

安全性の向上に努めています。

チームシマノでの取り組み

シマノの社員一人ひとりが、日々の業務の中で環境のためにできることを考え、行動しています。こうした地道な活動の積み重ねが、企業市民としてのシマノの環境活動の基本であると考えています。

14種類のゴミの分別

本社及び全国の事業所では、環境整備・美化を目標に、ゴミの分別を行なっています。ゴミは14種類に分別し、分別されたゴミはそれぞれ専門のリサイクル業者に回収され、適切な再資源化・再利用・廃棄が行なわれています。ひとつのゴミを捨てるにも各自が考え、適切に分別する。これはものづくりに携わるシマノの社員にとって、製品と環境との関わりを日々意識する上で大切な作業であると考えています。

自転車通勤の奨励

シマノは社員の自転車通勤を奨励しています。社員の一人ひとりが毎日、自転車通勤によって製品や利用環境について自ら体験・確認し続けることが、当社の開発・製造の強みにつながります。

320台収容の駐輪場、個人ロッカーや風呂などの設備の他に、自転車通勤手当も完備。約3割の社員が自転車で通勤しています。

廃棄物のリサイクル

印刷物には基本的に再生紙を使用しています。また廃棄用紙はトイレトペーパーとしてリサイクルし、使用しています。特に、会社案内・名刺などには、「ヨシ」のリサイクルペーパー「レイクパピルス」を使用しています。また、当社社員が大和川で刈り取ったヨシをリサイクルし、当社主催イベントのノベルティなどに活用しています。



朝の出勤風景



駐輪場(収容台数350台)



シマノペーパー
大和川浄化のために刈り取った枯れヨシを
リサイクルし、福祉作業所との協働で製作

2. 社外での取組み

水辺の環境改善活動

ヨシは、窒素やリンなどの水中の汚れ物質(養分)を吸収し、水をきれいにします。しかし、枯れたヨシが腐食すると吸収した水中の汚れ物質をまた水の中に戻してしまいます。シマノでは、2003年から大和川のヨシ刈りを行なっています。2005年は100人を超えるシマノ社員がこの活動に参加しました。また、刈り取ったヨシをチップ化し庭木用堆肥として利用したり、福祉作業所との協働で「シマノ・ペーパー」を製作する活動も行なっています。



ヨシ刈によって翌年の春の新芽が出やすくなり、ヨシの成長を促進します

クリーンナッププロジェクト

釣場でゴミ拾いをした写真を送っていただき、その写真をシマノホームページに掲載して記念品を贈る活動です。小さな活動の積み上げを大切にしたいとの思いで、今年1,000組の参加を目標に取り組んでいます。シマノの主催する実釣会や釣り競技会を開催した際にも、参加者、関係者の全員で「クリーンナッププロジェクト」を実施しています。



海の近くに住む子供たち3人で干潟のゴミを拾い、写真を送ってくれました

国際的な自転車活用推進機関への協力

「ICLEI」への支援

国際的な自治体連合組織、イクレイ(ICLEI)と協力し、地方自治体が自転車に優しいまちづくりに取り組むことを応援しています。その活動の一貫としてイクレイの「自転車を楽しむ都市賞」に協賛しています。「自転車を楽しむ都市賞」は、自転車を活用した優しいまちづくりに関して優れた成果をあげた自治体を国際的に顕彰するものです。2006年2月末に開催されたイクレイ世界大会での「自転車を楽しむ都市賞」第1回顕彰においては、アフリカとヨーロッパの自治体が対象でした。顕彰は3年毎に行なわれ、次回、2009年は別の地域を対象にし、2012年にはより多くの地域が対象となります。こういった活動を通じ、シマノでは世界中で長期的に自転車にやさしいまちづくりを推進します。



自転車を楽しむ都市賞-優秀賞を受賞したジュネーブへの授与

「Velo Mondial」への支援

シマノはベロ・モンディアル(Velo Mondial)を支援しています。ベロ・モンディアルは自転車の活用に関する計画を立案・実行する国際的な協議会で、自転車活用に関する知識・経験やビジョンを収集することを目的としています。世界中で自転車の活用や人と自転車に優しいまちづくり政策の立案・推進を奨励し、健康的で、地球環境に優しい自転車の利用促進に寄与しています。シマノでは、このような自転車の有効的な利用促進をすすめる活動を応援し、地球環境問題に対する関心が高まる中、持続可能な社会の発展に向けて、自転車利用のさらなる活性化と自転車文化の向上に取り組んでまいります。

自転車博物館サイクルセンターの活動

1992年、自転車文化を発信し、自転車ライフを提案するために開設。日本で唯一の「自転車博物館」として、財団法人シマノ・サイクル開発センターが運営を行なっています。

自転車の展示だけにとどまらず、地域社会と密着した「自転車乗り方教室」や「こども絵画コンクール」など、多岐にわたる活動を展開しています。自転車博物館サイクルセンターの主な活動をご紹介します。



自転車博物館 サイクルセンター

< 博物館展示 >

館内に19世紀の初めにつくられた世界初の自転車「ドライジーネ」から最新のオリンピック出場車までさまざまな自転車が展示され、実物を見て自転車の歴史を学ぶことができます。他にAVホールでのビデオ上映、図書室など、多方面から自転車を学ぶ展示・資料を揃えています。



2Fクラシック自転車の展示

< 自転車乗り方教室 >

自転車に乗れない人を、ビデオ学習と練習指導によって“すぐ乗れる”ようにする、やさしい初心者スクールを開催しています。



乗り方教室のようす

< クラシック自転車(レプリカ)の体験試乗 >

19世紀ヨーロッパでつくられた「ドライジーネ」や「ミショー型」「オーディナリー」など、クラシック自転車のレプリカを制作。体験場で実際に試乗することができます。

< こども絵画コンクール >

毎年夏休みの時期に、堺市や朝日新聞社、他の後援・協賛を得て「こども絵画コンクール」を開催しています。コンクールは、

- 人と自転車の生活風景
- 博物館内自転車の写生
- 夢の自転車、をテーマに作品が寄せられます。



こども絵画コンクール
2005年入賞作品

各活動の実施回数・参加人数(2005年度見込み)

	回数	参加者数
博物館見学	-	23,871人
自転車乗り方教室	72回	1,334人
クラシック自転車(レプリカ)の体験試乗	106回	10,728人
こども絵画コンクール	-	25,298人

この他にも、自転車博物館サイクルセンターでは「スポーツバイクスクール」「自転車散歩」など、実際に自転車に乗ってその楽しみを上げていく活動や、自転車のまちづくりを推進すべく、ホームページで先進的な自転車を活用したまちづくり事例を紹介するなど、多岐にわたる活動を展開しています。

堺自転車まちづくり市民の会への参加

自転車のまち・堺において、意欲ある市民のパワーを結集し、「自転車力」を活かすまちづくりをめざすべく「自転車まちづくり市民の会」に参加しています。

「サイクルマップ部会」では、より安全で快適に走行できるコースを提案するマップ作成に向け、実走による情報収集を進めています。

「マナーアップ部会」では、自転車走行のルール・マナー啓発のためのチラシを作成し配付するなどの活動を、市民とともに実施しています。

「市民の会」の活動として、昨年11月から毎月「自転車デー」を定め、ルール・マナーの啓発活動や自転車散歩、自転車無料点検などを実施。「正しく、楽しく、美しい」自転車利用をよびかけています。

今年2月20～28日には、堺市役所ロビーで市民活動をPRするパネル展示と、自転車博物館サイクルセンターも協力し、昭和20年代から現在までの日本で生産された自転車の展示なども行ない、まちづくり活動を推進しています。



自転車散歩



月に1日開催される「さかい自転車デー」

自転車博物館サイクルセンター事務局長 中村 博司

立命館大学産業社会学部在籍中、全日本アマチュア自転車選手権ロードレース優勝。卒業後、島野工業(現シマノ)入社。現在は「自転車に乗る楽しさを広める」ことをライフワークに活動。58才になる現在も往復30kmの距離を自転車で通勤しています。ここで紹介させていただいた「キャリア教育プロジェクト」、「堺自転車環境共生まちづくり企画運営委員会」の諸活動に参加すると同時に、テレビ番組への出演、新聞・雑誌への連載・寄稿、著作活動、講演会、シンポジウムへのパネリストとしての参加など多方面で活躍しています。



中村博司事務局長

自転車博物館

TEL : 072-243-3196

URL : <http://www.h4.dion.ne.jp/bikemuse/>

大和川での清掃活動

かつてはその水質が、全国でワースト1にもなった大和川。毎年2回、市民らとともに清掃活動に積極的に参加しています。2005年は延べ300人の社員がこの活動に参加しました。その甲斐あって、2005年はワースト3というところまできました。2005年9月には、そのきれいになりつつある大和川下流で、多くの参加者による『大和川魚釣り大会』に実施協力し水質の向上の成果を確認できました。



大和川清掃活動

せんなん里海公園での清掃活動

清掃活動と同時にどんなゴミがどのくらいあるかを調査し、「発生源からゴミを減らし、世界の海洋汚染を減らす。」という世界118カ国が参加する国際ビーチクリーンアップキャンペーンの主旨に賛同した活動です。この調査内容はボランティア組織の「クリーンアップ全国事務局」を通じて国際的な集計がなされ、汚染対策の重要な資料となっています。このせんなん里海公園は大阪府の南に位置し、毎年、国際ビーチバレーの大会が行われています。同公園では、この調査結果を高く評価していただき、インターネットで公開するなど、対策に役立てていただいております。



せんなん里海公園清掃

福祉作業所との協働

シマノは知的障がい者の自立支援として、ヨシのはがきを福祉作業所の方々と協働でつくっています。シマノの社員ボランティアは、工場内でヨシを繊維(パルプ)化します。福祉作業所(「紙再生工房」様、「座座」様)で、それをリサイクル牛乳パックと混ぜ、手漉きのヨシ紙を作っていただいております。本社(大阪府堺市)近くの小学校(神石小学校、上野芝小学校)でも子供たちがヨシを利用した地域の川の水質浄化に取り組み始めました。その活動を応援するため、これら2つの小学校の児童(約150名)に福祉作業所の方々と協力して紙漉き体験授業を行いました。このような福祉作業所の方々との協働で、紙のリサイクルやヨシの役割について理解を深めてもらう活動を行なっています。



小学校でのヨシ紙づくり

「2005年度社会活動報告書」をよんで

社会活動報告書を発刊して2年目、内容的に社会、環境、文化などボリュームが大幅に増加し、社会や市場に知ってもらおう、とする意欲が感じられる。

本報告書は巻頭に社会活動方針を掲げ、社長の言葉で年度の基本スタンス、主な活動を「企業市民」として「実行」する決意を示した。説明責任への本気の姿勢が窺える。

社会活動の三つの方針

「歓びの高揚」「利用環境の改善と保全」「信頼の構築」はいずれも生活者主導によるリレーションシップ・ベースの価値創造型発想であり、報告された具体的活動もおおむね理念の反映と評価できる。

今回はハイライトとして、経済産業省「キャリア教育プロジェクト」、
「シマノ環境マネジメントシステム」、東京・南青山の「オーブ」を挙げ、プロジェクトに参加した社員の取材記事を掲載した。

等身大を実感でき、親近感もあるが、ジャーナル的になるので、成果については客観的、数値的表現が妥当であろう。

投資関係者、顧客、社員に必要なデータは盛り込むべきである。

また最近注目されているダイバーシティ(多様性)について

チームシマノでは既に多数の外国人雇用を先駆的に実践しているのだから他のグローバル政策とともにもっとアピールすべきではないか。

今後の課題として、社内の内部統制とリスクマネジメント体制、とりわけ数年後に制度化が予想される災害型リスクへのBCP(事業継続計画)、環境、防災、社会などのCSR会計など適正な格付け、評価を得るためにもぜひ対応、充実させ、公表してオープン・エンタープライズをアピールしてもらいたい。



千葉商科大学・大学院教授 藤江俊彦



SHIMANO
www.shimano.com

株式会社 **シマノ**

〒590-8577 大阪府堺市堺区老松町3丁77番地

広報室

Phone: 072-223-3957

Fax: 072-223-6045

この冊子は「レイク・パビルス」(^{ヨシ} 葎混抄紙) を使用しています。琵琶湖の「西の湖」に群生する葎は、春から冬に枯れるまでの間、湖の水を絶えずきれいになります。毎年刈り取る必要のあるヨシをリサイクルしてできたのがこの冊子の用紙で、1冊につき琵琶湖の水、約900 の水が浄化されました。

2006年4月1日発行 ©2006 by Shimano Inc. Printed in Japan PLD XBC IZM